

---

# 魔法少女ちゅーりっぷん 天才の苦悩

源雪風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女ちゅーりっぷん 天才の苦悩

### 【Nコード】

N0161K

### 【作者名】

源雪風

### 【あらすじ】

魔法少女シリーズ第3弾。

囚われた魔法少女と天才中ボスの心の交流が奇跡を起こす。

魔法少女ちゅーりっぷんは、悪の組織との戦いに敗れ、捕まってしまった。

「さあ、どうしてやろうかな。お前らはもう俺様のモノだ。」  
と、敵の中ボスかなたは言った。

「なによ！かわいい女の子を捕まえてどうする気よ！年下のくせに偉そうに！」

ちゅーりっぷんのリーダー、莓は叫んだ。

「うるさい小娘め。あまり口が過ぎると痛い目に遭わせるぞ。」とかなた。

ちゅーりっぷんのサブリーダー、楓は、かなたをどこかで見たことがあるな。と思っていた。

ちゅーりっぷんのしたっぱ、れもんは、今日の夕食何かな。と思っていた。

「そうだ。いいことを思いついたぞ。」

かなたはメイド服を三つ持ってきた。

メイド服は魔法少女三人の体へ飛んできて、フィットした。

「その服は冥土服。死ぬまでご主人様にご奉仕させる。しかも、俺様が解除しない限り脱げない。よってお前たちは死ぬまで俺様の世話をして生きるんだ。どうだ？嬉しいだろ。」

かなたは端正な顔を、意地悪そうに歪めて笑った。

「変態！助かったら、ぶっ倒してやる！」と莓。

楓はまだ考え込んでいる。

れもんは、

「ご飯がおいしければ、がんばりますよ。」

とほがらかに言った。

こうして、魔法少女と敵中ボスの同居生活が始まった。

魔法少女は、初めは嫌々仕えていたが、かなたが時折寂しそうにしているのを見て、何とかしてあげられないだろうかと思うようになった。

そんなある日、楓がかなたに話しかけた。

「もしかして貴方は、昔ＴＶで騒がれていた天才少年じゃないかしら。」

「覚えているのか。俺様を。」

「５歳にして円周率や日本文学を一字一句間違はなく暗唱してたわ。」

「いかにも。昔はそんな時期もあった。でも今ではみんなにすっかり忘れられてな。あの頃はみんなが俺様を見てくれていた。女だって選り好みなほど寄ってきた。しかし、しばらくしたら、俺様よりも、もっとすごい奴が出てきて、すっかり俺様は忘れられてしまった。だから俺様は、この組織の力で俺様だけが愛される世界を作りたい。みんなにまた見てもらいたい。」

かなたはひときわ悲しそうにうつむいた。

苺が、

「本当の天才なら自分の力で、また人気者になってみせなさいよ！」と、挑発的に言ってみせた。

「俺様は、ずっと屋敷で勉強しかしてこなかったから、どうしたらいいかわからない。」

「そんなの本当の天才じゃないじゃん。ただの暗記マニアじゃないの。」

と、苺。

「俺様だって本当は、暗記なんかしたくなかった。でも、親ができるまでやらせたんだ。できなかったら誰も俺様なんか見てくれないんだ。」

「だから、寂しくしていたいけな女の子を捕まえて働かせているのね。ふーん。」と、苺。

「うつ、うるさいな。お前は黙って俺様の肩を揉んでいればいいんだよ。」

かなたは冷たく言ったが、心の中は人に理解された喜びでいっぱいだった。

かなたはボスに呼び出された。

「何でしょうか。」

「ちゅーりつぷんを捕まえたそうだな。私に渡せ。」

かなたはちゅーりつぷんを引き渡した。

「忌まわしき魔法少女め。今こそ亡き者にしてやる。」

冥土服を着ているので、魔力で体が動かない。

ボスはちゅーりつぷんに電撃を浴びせようとした。

かなたは見ていられなくなった。

気が付いたら、ちゅーりつぷんを守っていた。

「貴様！何のつもりだ！」

「こいつらは俺様のモノだ！だからお前に壊されたりはしない！」

かなたは冥土服の呪縛を解いて、ちゅーりつぷんを自由にさせてあげた。

「逃げる。そして生きる。」

ちゅーりつぷんは戸惑った。

逃げたらかなたが死んでしまう！

「行けよ！」

ちゅーりつぷんは魔法の力で逃げた。かなたは強力な電撃を受けて、その場に倒れた。

・・・そうか。俺様は、あいつらのことが好きだったんだ。俺様は天才だったのに、好きな女の為に死ぬなんてバカだな。でもこんな死にかたも悪くないかもしれない。楽しかったな。あいつらとの生活・・・。

ちゅーりつぷんはかなたの悲鳴を聞いて、組織のボスを倒す決心を

した。

「もうこれ以上、悪の組織の被害者を出してはいけないわ!」と楓。

「私たち、戦わなきゃ。」とれもん。

「失った仲間の為に!世界の為に!」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0161k/>

---

魔法少女ちゅーりっぷん 天才の苦悩

2010年10月28日07時28分発行